



和

2018-2019

第20回例会

RIテーマ BE THE INSPIRATION

インスピレーションになろう

クラブテーマ 『「和」を以って～夢を～』

会報 No. 1064 豊橋東ロータリークラブ

事務局：豊橋市花田町石塚 42 豊橋商工会議所内 TEL 0532-56-8566 FAX 0532-39-7520

会長：西 崇秀 副会長：安田直樹 幹事：福井知裕 出席・会報委員長：長田徹也

平成 30 年 12 月 12 日(水) 12:30～13:30

例会会場：ホテルアークリッシュ豊橋4F ザ・テラスルーム 担当：R 情報・研修・会員選考

ロータリーソング「我らの生業」/「四つのテスト」唱和：川西 裕康 さん

ゲスト ヤマサちくわ株式会社 常務取締役 佐藤 善彦 氏

| 出席報告 | 会員総数 | 計算会員 | 出席免除者数 | 欠席 | 出席率 | 11月28日修正出席率 | ビジター |
|------|------|------|--------|-----|--------|-------------|------|
| | 49名 | 46名 | 5名 | 10名 | 78.26% | 95.56% | 2名 |

会長挨拶 西 崇秀 会長

12月8日(土)小学生とプロプレーヤーのバレーボール教室に多くのメンバーの方にご参加いただき本当にありがとうございました。地区補助金事業青少年育成の観点から有意義な例会を開催することができ、心より感謝申し上げます。中京テレビ、中日新聞、東愛知、東日、ケーブルテレビ、スポーツ豊橋が、取材に訪れていただき、今年重点目標の一つである、公共イメージ向上のための、地域への発信そしてPRを積極的に行うという部分ではしっかりと実践できたのではないかと思います。さて、本日は、ヤマサちくわ株式会社 常務取締役佐藤善彦氏をお迎えし、食の旬「えそ醤油」老舗が挑む 新たな挑戦 と題して卓話をいただきます。よろしくお願いたします。

新会員入会式

新会員：近藤 喜典 さん
 勤務先：(株)きてん 代表取締役
 職業分類：福祉サービス
 新入会員紹介：西 崇秀 会長
 歓迎の言葉：小笠原 竜児 副幹事



本日のプログラム

『食の旬「えそ醤油」～老舗が挑む、新たな挑戦～』
 ヤマサちくわ株式会社 常務取締役 佐藤 善彦 氏
 当社は1827年、文政10年に創業し、190年続いております。調味料メーカーのイチビキ株式会社様と共同開発を行い、練り製品の原料として使われる「えそ」のアラから作る魚醤を共同開発し昨年発売致しました。第8回調味料選手権2017、日本の伝統調味料部門において最優秀賞を受賞させて頂きました。本日は皆さんにも味わって頂きましたこの「えそ醤油」の開発を通じた当社の挑戦についてお話をさせていただきます。ヤマサちくわでは海で獲れる鮮度の良い「えそ・ぐち・はも」を練り物の原料としていますが、頭・内臓等のアラは加工されず破棄されており、その有効活用が長年の課題となっておりました。そんな折



に、高校の同窓会の集まりにおいて同級生である味噌・醤油等の調味料メーカーのイチビキ株式会社(1772年・安永元年創業)の中村社長にアラの有効活用についての悩みを打ち明けた所、とんとん拍子に話が進み老舗メーカー2社による魚醤制作のプロジェクトが立ち上がりました。近年、日本でも魚醤を使ったエスニック料理が流行しています。強い旨みとコクがある調味料にも関わらず、独特の臭みがあり一般に浸透していないという現状がありました。魚醤づくりをスタートするにあたり国内国外の各種魚醤を試してみましたが、醤油と比べると臭いに癖がありました。開発にあたり、旨み・コクはそのままに匂いを改善した日本人の味覚にあった魚醤を作る事を目標にしました。臭くない魚醤を目指して、原材料の検討、アラの部位、仕込み方法、使用する麹、発酵菌の種類と配合量、塩分量、熟成期間の検討等、試す事は多岐にわたりました。美味しい竹輪づくりには欠かせない「えそ」を使用し、2年間かけて2万株の菌の中から適した菌を探しました。完成したえそ魚醤を分析すると、旨み成分が魚醤よりも高く、塩分は醤油よりは高いが魚醤よりは低く、匂いが無い良いところ取りの魚醤が完成しました。この新しく出来たえそ醤油が広く愛されていけばと考えております。

3分間スピーチ 金子 和久 さん

自分が担当する人事について、来年度の採用が年明けから始まるが良い人材が採れるか不安を感じています。都会に出た学生が地元へ就職するのが少なくなっている実感があります。皆様も人手不足感を感じられるかと思いますが、いかに地元人を呼び戻すのが課題だと感じます。行政が東京でイベントをする際には、この地域出身で関東在住の学生をいかに巻き込み、地域活性化へ繋げていくのが課題ではないかと考えます。



写真/原稿：長本 康孝 さん